

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員で話し合い、 「私たちは、ご利用者様が、地域の中で『自分らしさ』と『生きがい』を保ちながら、『安心』した生活が出来るよう支援いたします」という理念を作り上げ、掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員と管理者は、常に理念を意識しながら支援できるよう、目に付く場所(スタッフルーム・各ユニット)に理念を掲示している。また、毎朝のミーティングの際に理念を唱和することで、職員は、ケアの指針を再確認できている。職員会議やケアカンファレンスなどにおいても、理念を意識し、より良いケアに向けて日々努力している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>手作りの理念ボードを各ユニットの目立つ位置に掲示し、また毎月ご家族へ郵送する広報誌には必ず理念を掲載し、理解してもらえるよう取り組んでいる。 地域の方へは、町内会回覧用広報誌に理念を掲載し、お知らせしている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域住民の一員として、町内会に加入し、町内会の会議にも出席している。近隣の町内会の行事(納涼祭、公園の草取り、ラジオ体操)へ積極的に参加し、地域からは毎年子どもねぶたの訪問を受けたり、野菜が届けられることもある。小学校合唱部、高校吹奏楽部との交流も継続して行われ、小学生が個別に訪問してくれることもある。防災協力委員を設置し、災害時には、地域住民が協力してくれる体制を整えている。認知症に関する知識を回覧用広報誌に掲載している。</p>	<p>地域の行事へ積極的に参加することを継続し、地域住民の方と触れ合う機会を増やし、顔なじみの関係を築くことが出来るよう支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>全職員が自己評価することにより、職員一人ひとりがサービスのあり方について考えることが出来る良い機会となっており、今後も継続して行っていきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(様式1)			
10 契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、説明の為に時間を頂くことを前もって説明し、契約時には、十分な時間をとり、分かりやすい説明を心がけ、書面にて同意を得ている。疑問点等が直ぐに出てこないこともある為、入所後にも、本人や御家族にさりげなく声掛けし、不安な点や疑問点を聞き出すような対応をしている。解約時には懇切丁寧を旨とし、必要に応じて、関係機関との連絡調整や情報交換を行い、今後の相談に応じている。		
11 運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情、要望については、速やかに職員へ周知し、改善に向けての話し合いを実施し、迅速に対応できるようにしている。また、いつでも職員に気兼ねなく申し出ることが出来るような雰囲気作りを心がけており、普段のかかわりの中で、何気なく申し出を受けることもある。また、事業所内の各ユニットに目安箱を設置している。		
12 家族等への報告  事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らし方や健康状態の変化、内服薬の変更、受診後の結果報告など随時行っている。細かなことでも連絡をとり、家族が納得した上で実行できている。金銭管理は、出納簿に記入し、領収書と出納簿のコピーを郵送している。家族が照合確認し確認印を押した後、領収書の原本を渡している。領収書はコピーしたものを保管している。月1回の広報誌にて状態を伝えると共に、面会時には近況を必ず伝えている。		
13 運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも職員に気兼ねなく申し出ることが出来るような雰囲気作りを心がけており、家族が面会に見えた際には、職員より積極的にコミュニケーションを図ることに努めている。また、家族が参加する会議の開催やアンケート調査をしている。受け止めた要望などは、職員へ周知し、速やかに対応できるように心がけている。また、法人に第三者委員が、施設内には目安箱が設置されている。		目安箱をもっと活用していただく為、毎月請求書と一緒に苦情等意見書を郵送することにする。
14 運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回開催している職員会議にて、運営会議に提出する為、課題を話し合っている。また、職員に個別に面談する機会を設けている。		
15 柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望、緊急時に柔軟な対応が出来るよう、職員間での協力と理解をもとに、勤務交換や超過勤務で対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、家族と信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職でやむを得ない場合も、利用者説明をすると共に、その時期や引継ぎの面で利用者へのダメージが軽減するように配慮している。また、事業所内での職員の入れ替えも出来るだけ行わず、固定化するように努めている。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修に関しては、職員の段階に応じて研修内容を検討し、ほぼ全員参加できるように支援している。研修報告会を開催し、外部の研修に参加した職員を通して、知識や情報を得ることが出来ている。また、認知症介護実践研修(実践者・リーダー研修)は、毎年受講するようにしている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人外での研修会や事業所内での研修会にて情報交換する機会がある。また、他事業所の見学を行い、情報交換している。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に、何か困っていることがあれば迅速に解決できるように心がけている。また、利用者のことなど、その時々利用者に合わせて支援の仕方を納得いくまで話し合っている。親睦を深め交流を図る為に、歓迎会、ビアガーデン、職員旅行、忘年会、新年会、送別会などを実施しストレス解消に努めている。また、職員の休憩室は利用者の居住区域と離れた場所にあり、職場の中でも気分転換を図ることが出来る。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>正職員については、人事考課を実施し、給料などへ反映されるような仕組みがある。また、パート職員から、準職員へ、準職員から正職員へと登用する仕組みがある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には、訪問調査に出向き、本人、家族と面談しながら、それぞれの思いやニーズ、生活状況、希望や要望などを把握し、受容・共感・傾聴を大切に、よく話し合い、信頼関係を築くことが出来るよう心がけている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際には、十分に状況を聞き、その方が必要としていることは何かを把握すると同時に、入所申し込み対象であるかの見極めを行い、他機関への紹介や必要に応じて連絡調整を行っている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前の訪問調査にて、パンフレットを持参し、事業所の雰囲気や内容を伝え、不安感の軽減を図っている。また、入所前の見学を勧めている。入所後は、利用者とのコミュニケーションを密にし、要望や不安などを聞きだし、安心した生活が送れるよう支援している。また、入所前に、日課などの情報を得るようにし、入所時には、家族にアセスメント表を渡し、これまでの生活歴など分かる範囲での記入をお願いし、環境が変わっても日課などを継続できるように支援している。</p>	
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者との会話の中で一緒に楽しんだり、新聞やテレビの情報から一緒に楽しんだり、怒ったり、悲しんだりする時間を作っている。また、利用者は、人生の先輩であるという事を念頭に置き、職員の一方的な働きかけだけではなく、共に生活しているという意識を持つように心がけている。(料理の作り方や習慣をおそわるなど)利用者と一緒に共感できることや感謝の言葉が職員の心の支えになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には利用者の日常生活を伝え、家族からは、嗜好や趣味などの情報を得るようにしている。また、日々の様子や健康面においても、面会になかなか来ることが出来ない家族には電話で情報を伝え、職員側が一方的に決めることはせずに、必ず相談するように努め、一緒に支えていくという意識で支援している。また、利用者本人が新たに出来た事柄も伝え、喜びを共有することもある。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や毎月の広報誌にて本人の近況を小まめに報告したり、家族が施設に来やすい雰囲気作りに努めている。家族内の行事や外泊の際、要望があれば送迎の援助を行うなど、外泊や外出の支援を行っている。また施設行事への家族の参加の促しを行い、利用者の方と一緒に集える機会を設けている。また、遠距離の家族へは利用者へ手紙をかいてもらうなどの支援も行っている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた馴染みの床屋、美容院や、昔から信頼して通院し続けている病院へ行く事が出来るよう支援している。また、知人などが面会に来ることもある。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員間の情報交換を行い、利用者同士の関係と孤立しがちな利用者を把握し、様子観察に努めている。孤立しがちな利用者に対しては、職員が間に入り、ゲームやコミュニケーションを行い、トラブルにならないように配慮しながら、皆が交流を図る事が出来るように支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスを終了しても、他施設を探して欲しいと相談があった場合、他施設と連絡・調整を図るなどの支援を行い、良好な関係が継続できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々、利用者と接する中で、会話や動作、表情などもよく観察し、思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は、家族からの情報を参考にし、本人の思いを推測するようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前には、家族や担当ケアマネージャーなどを通して利用者についての情報収集を行っている。生活歴については、プライバシーに係ることであるため、入所時には比較的情報量が少ない状態であるが、その後、家族や本人との信頼関係を構築しつつ、差し支えない程度に情報を得ることに努めている。センター方式のアセスメントを取り入れ、用紙を家族に渡し、可能な範囲で記入してもらっている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>暮らしの現状の把握については、職員間で日々の情報を交換・共有し、ケアカンファレンスなどで密に話し合うと共に、ケース記録やセンター方式アセスメントにて心身状態を把握することに努めている。健康状態に変化が見られた際には、バイタル測定を行うなど、原因を探っている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には、計画作成時のみならず、日頃のかかわりの中で、意見や要望、意向を聞き、介護計画に反映させている。また、アセスメントを行い、ケアカンファレンスを開催し、職員間で十分な課題分析を行い、情報交換しあいながら検討、作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、6ヶ月ごとに立案し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。見直し以前に現状に変化が生じた場合や本人や家族からの申し出があった際には、本人と家族と十分に話しあい、新たに介護計画を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や援助、気づきや工夫については、細かく個別の伝達ノートにメモし、それを基に個別記録や介護日誌へ記録している。それらの情報を共有しながら、会議で検討し、介護計画立案や見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護事業の指定を受けており、併設しているデイサービス利用者が利用したこともある。利用者や家族のニーズに応じ、柔軟な対応が出来るよう努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員を含め、地域の方々5名が防災協力委員としての役割を担っており、災害時の協力体制が整っている。また、利用者の楽しみの一つである歌や踊りの地域での催し物(納涼祭など)に出掛けている。小学校合唱部や高校の吹奏楽部との交流は毎年行われている。		
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くにある理容所の訪問サービスを受けられるよう支援している。また、本人や家族の必要性に応じて、他事業所と連絡をとり、利用を申し込むなどの支援を行っている。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまで、地域包括支援センターとのかわりを必要とした事例は無いが、地域包括支援センター職員には、毎回運営推進会議に出席していただき、意見・情報交換したり、助言を受けたりし、協力関係が築かれている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、および家族の希望により、入所前からのかかりつけ医へ継続して通院支援を行っている。体調変化時や心配事がある場合は、家族と医療機関へ情報を伝達し、適切な医療を受けられるように努めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院として、精神科の病院があり、受診時は、細かな相談にも応じてくれている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が兼務で配置されており、日常の健康状態の相談や緊急時の支援、助言や指示を受けている。また、24時間連絡可能な体制をとっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、最低でも週1回は面会に行き、医療関係者より、本人の状態を聞き、状態を把握することに努め、情報交換を密にし、退院した後も安心して過ごすことが出来るように、早期退院に向けた話し合いを行っている。また、入院後、1ヶ月を目処に、退院可能か医師に相談している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方針を明確にしており、契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、かかりつけ医、本人、家族と繰り返し話し合い、情報を共有しながら、今後の方針について検討している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、家族へは、事業所が出来ることと、出来ないことを伝え、かかりつけ医、家族と相談しながら、状態に応じて支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が、他の事業所に移る際には、家族に情報提供について了承を得ることが出来るよう働きかけ、プライバシーに配慮しながら、本人の心身状態や嗜好、生活状況について、書面や口頭で伝達し、なるべくダメージを受けないよう、スムーズに対応していただけるように努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについて、職員一人ひとりがプライバシーを損ねるような言葉がけになっていないか、個人情報について配慮できているかを常に意識しながら対応している。また、プライバシーを損ねるような対応の場面が見られた際には、個人的に注意している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的に、本人の思いや希望を聞くこと、意思決定ができるように働きかけることに努め、利用者本位を尊重して対応している。意思表示が困難な場合にも、意思表示がしやすいように、簡単な言葉で(はい、いいえ)自己決定できるように質問の仕方を工夫したり、表情や仕草から意思を汲み取ったりしている。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れが優先的になってしまう時もあるが、業務の流れの中で臨機応変に利用者の生活リズムに合わせた対応を実施している。(朝食時間を本人に合わせる。散歩の実施。買物支援など)どうしても業務を優先せざるを得ない時には、その時のフォローを忘れずにやっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容については、本人や家族と相談の上、昔から親しみのある店に出掛けられるよう支援している。また、髪染めの支援もしている。衣服については、一人ひとりの好みに合わせたものを着用出来るよう、また、購入できるように買物の支援なども行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるものや昔食べていたもの等を献立に組み入れている。利用者の嗜好や禁止食物を把握し、食べられないものには、代替食を提供している。食材買出しには、利用者も一緒に出掛け、品物を選んでもらったり、調理の下拵えは利用者と職員と一緒にしている。食事の際には、職員も一緒に食事を楽しみながら利用者に気配りし、さりげなく支援を行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	菓子、果物、食事のおかず(梅干)など一人ひとりの好みのものを購入出来るよう支援している。健康面から、喫煙や飲酒が出来ない方については代替のもので楽しんでいただいている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけオムツを使わない方針である。どうしても必要な場合でも、安易にオムツにだけ頼ることなく、最小限の枚数にしたり、個別の排泄パターンにあわせて、出来るだけトイレの誘導・介助を行っている。また、使用中の紙おむつが一人ひとりにあったものなのか、工夫や調査を行い、本人にあったものを使用できるよう支援するなど、快適に過ごせる様検討しながら対応している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回決められた時間内ではあるが、一人ひとりの希望の時間やその日の体調に合わせて入浴を支援している。また、希望があれば、入浴日以外でも入浴できるようにしている。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者が休息している時には、無理に離床を促す事はせず、常に意思確認している。また、朝食の時間なども本人に合わせている。しかし、昼夜逆転から不穏となる事もあり、利用者の睡眠パターンを把握しながら、日中は活動的に過ごすことが出来るような働きかけを行っている。また、夜間も遅くまで好きなことをして過ごしている方には無理に就寝を促すことなく、状態を観察している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の日課や趣味、生活歴などを参考にして役割や楽しみを作り出している。また、利用者一人ひとりの、日常の何気ない言動や会話から、要望、楽しみ、生きがい、気晴らしと思えるものを見つけ出し、職員で情報を共有し、支援している。具体的には、食事の下拵えや茶碗拭き、盛り付け、掃除、裁縫など、その人の有する能力を活かしながら、楽しんで行うことが出来るものを支援している。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの力に応じて、家族と本人で話し合い、ある程度の金銭を管理している方もおり、買物や受診時、理髪の際に支払いできるように支援している。 また、管理できない方についても、ドライブでアイスクリームや菓子を購入したり、祭りでゲームするなど、お金を遣う楽しみを持っていただけるよう支援している。		
58 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出出来る機会(行事など)を設けている。外出の希望については、希望の場所へ出掛けられるように支援しているが、どうしても施設では対応できない場所や時間帯である場合などは、家族に相談し、出掛けられるよう支援している。また、突発的な申し出に答えられない場合があり、別の日に予定をいれるなどし、了承を得て支援している。馴染みの美容院や理容所、外食などは積極的に出掛けている。		
59 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	山や川、各地観光館など、遠距離のドライブを年2回実施している。その他、デパートや温泉など、要望に応じて出掛けられるよう支援している。		
60 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族、知人、友人からの電話や手紙、贈り物などがあり、手紙を出したり、電話の取次ぎの支援もしている。また、暑中見舞いや年賀状などの支援も行っている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者に対しては、いつでも明るく笑顔で迎え、帰りの際にも挨拶を忘れないように心がけ、気持ちよく面会できるよう心がけている。また、ゆっくりと寛いでもらうことが出来るよう、お茶などでもてなし、面会場所としてゆとりのある多目的室や落ち着いて面会したい場合には、個人の居室を勧めている。多目的室には、テーブル、畳、ソファ、金魚やオルガンを設置するなど、配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会を実施し、身体拘束の弊害など周知徹底している。身体拘束はしない方針であり、どの様にしたら、身体拘束をしなくてすむか、職員間で検討している。、どうしても身体拘束しか方法が無いことが、全職員での十分な話し合いで判断された場合には、家族にその旨を懇切丁寧に説明し、承諾を得た上で行い、行った場合でも早期に解除できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵を掛けることの弊害を理解している。玄関は、施錠しておらず、利用者の日常の行動パターンを把握し、外へ出る利用者には、職員が何処までも付き添っていく対応をしている。また、玄関には、センサーが設置され、出入りを感知すると、身につけているPHSが連動し、知らせしてくれる。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、各フロアに、最低でも2名の職員を配置し、職員一人ひとりが意識して、利用者の所在の確認に努め、見守りを行っている。夜間は、定時の巡回で確認しているが、必要に応じて頻繁に状態を確認するなどの対応をとり、安全に努めている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や薬品などは、見えない場所に保管し、夜間は施錠している。爪きりや裁縫道具、果物ナイフ、洗剤など、自ら使うことが出来、管理できる方については、身辺に置き、自由に使えるように支援している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為にヒヤリハットメモを、発生した事故については事故報告書を提出してもらい、職員全員で原因を話し合い、事故を未然に防ぐ為に再発しない為に対策を検討している。服薬に関しては手順書に沿って行い、窒息については、食事形態を検討して、増粘剤を使用したり、ミキサー食で提供するなど工夫している。行方不明については、玄関にセンサーが設置されているが常に所在確認を実施している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置のマニュアルを作成し、職員に配布している。又、全職員が、年に1回、救急救命講習を受けることが出来るようにしている。また、昨年度は、応急手当の講習を実施している。		1年経つと、忘れてしまうこともあり、年1回と定期的に今後も実施していきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、火災時の避難訓練を実施し、適切な避難が出来るようにしている。地震想定での避難訓練は、年1回実施している。地域住民により構成されている防災協力員を設置しており、一緒に避難訓練に参加したり、電話連絡網による通報訓練を実施し、協力体制が整っている。また、災害時を想定し、水や食べ物などの備蓄がある。		毎月実施することで、避難訓練の重要さや理解が深まっている為、今後も継続して、毎月実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりについて、日常生活状態に少しでも変化があれば、都度電話や面会の際に細かく伝えるようにし、その上で、状態変化によって起こり得るリスクについても随時説明し、対応策を家族と一緒にとえている。現在、ヒッププロテクターの着用や角ばっているところへ衝撃緩和剤を貼るなどの工夫をしている。また、リスクはあるが、外出したり、散歩にでたりと抑圧感のない生活を大切にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルを測定し、排便の確認を行い、状態を観察している。ミーティング、申し送り、記録などで情報を共有するほか、日常的に顔色や動作、言動、体調の変化に注意し、少しの変化でも勤務者同士で情報交換している。必要に応じて看護師に相談し、助言・指示を仰ぎ速やかに受診するなどの対応を行っている。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・投薬手順書に沿って、行っている。利用者の薬の内容は、個別にファイルに保管しており、必要時は、それを見ることが出来るようにしている。薬の内容に変更があった場合には、医師からの説明を受け、全職員に日誌や申し送りを通して周知している。次回受診時には、その後の変化を医師へ報告している。錠剤の飲み込み困難者は、医師へ相談し、粉碎してもらうなどの支援を行っている。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の確認を行い、献立には、毎朝牛乳を、また、繊維質の多い野菜、果物、野菜ジュースを取り入れている。なるべく、自然排便を促し、体を動かすことやテレビ体操などを促したり、水分を補給することが出来るように嗜好品を取り入れるなどの工夫もしている。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛け、見守り等、その人の能力に応じて、口腔ケアを支援している。嗽が困難な利用者に対しては、イソジン・グル液とガーゼを使用し、口腔内を清拭している。また、義歯を使用している利用者については、義歯洗浄剤につけて、汚れを落とすなどの支援を行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が不足とならない様に一人ひとりの摂取状態を日々観察し、不足している方については摂取量をチェックしながら把握出来る様にしている。食事や水分が不足している利用者には、その人にあった嗜好品を取り入れ、摂取できるように支援している。摂取不足が解消できない場合は、医師へ相談し栄養補助食品の処方や購入の支援をしている。また、嚥下状態に合わせた食事形態で対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の流行時期には、情報収集を行い、全職員に周知している。感染症に対するマニュアルに基づき対応している。予防に関しても、加湿器の設置、外出時のマスク着用や手洗い、嗽、食前の手洗いを徹底している。毎朝、掃除の際には、塩素系漂白剤をしようし、手拭タオルではなく、使い捨てのタオルを使用している。インフルエンザ予防接種と検便は利用者、職員ともに全員実施している。		
76 食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理従事者は、衛生管理マニュアルに沿って点検し、調理を行っている。また、布巾の煮沸消毒、調理器具の洗浄、調理前の消毒スプレーなどで食中毒予防に努めている。食材は、毎日買出しに行き、新鮮なものを購入するよう努めている。食中毒が発生しやすい時期には、買物時に保冷バックを活用している。週1回は、冷蔵庫内の保存食を点検している。肉などには十分火を通すようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
(1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームが建物の奥に位置しているため、手前の建物に案内版を設置している。また、事業所の玄関がユニット別に分かれている為、初めての来客者は戸惑うこともあり、「どちらからでもどうぞ」と掲示している。玄関周辺には、プランターを設置し、建物周辺も花木や野菜畑で親しみの持てるように工夫している。冬季は、玄関までの通路が滑らないよう、除雪や融雪剤を散布し、つららにも気を配っている。		
78 居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の照明は落ち着いた雰囲気工夫しているが、夕食時は暗い為、照明器具を増やしている。職員一人ひとりが、騒々しい音は利用者に悪影響である事を認識して行動している。また、共有空間からは、畑や花木がみえ、作物が実り、また季節の花が咲いている為、季節を感じる事が出来る。その他、季節にあった施設内の飾りつけも工夫し、正月には、餅など、十五夜にはススキや果物などを供えて季節感を出している。		
79 共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や多目的室にはソファが設置されている。畳の間や水槽、オルガンも設置され、新聞や雑誌もそなえており、気の合う利用者同士が談笑できる場として利用されている。また、テラスには、ベンチやテーブルが設置され、日向ぼっこに活用されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>多目的室には、畳のこあがりや、オルガンがある。金魚の水槽もあり、名前をつけたり、えさをあげたりし、成長を楽しんでいる。食堂に面したテラスを通して、野菜畑を見渡すことが出来、野菜の成長を楽しんでいる方もいる。廊下は、広いつくりになっている為、歩行訓練やボール投げ、体操の場として活用している。天気の良い日には、テラスを活用し、花にお日様を当てたり、布団を干すなど活用している利用者もいる。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・外部研修や内部研修の充実化を図ると共に、職員一人が資格取得に向け努力しており、認知症ケアの専門性を高めることに力を入れている。  
(認知症介護実践研修(実践者研修)修了者、介護福祉士資格取得者それぞれ、半数の職員が修了・取得)  
(認知症介護実践研修(リーダー研修)修了者 2名)
- ・当事業所の職員は、笑顔と明るい雰囲気作りを常に心がけており、利用者のみならず、施設にお見えになった方全員に居心地良く過ごしてもらえるよう努めている。
- ・月1～2回の行事を実施しており、その他にも地域の行事に参加するなど、気分転換や生活の活性化につなげられるよう支援している。